



武蔵大学大学院案内

Musashi University Graduate School Guide

2025

経済学研究科 / 人文科学研究科

経済・経営・ファイナンス専攻

欧米文化専攻 日本文化専攻 社会学専攻

大学院を志す皆さんへ

武蔵大学は、「自ら調べ自ら考える力ある人物」を「建学の三理想」のひとつに掲げ、真に主体的な思考力をもつ人材の育成を目標とする教育を行っています。「ゼミの武蔵」といわれるように、少人数のゼミナールを教育の柱としていますが、この伝統は大学院においても生かされています。少人数の演習などで一人ひとりの学生の研究テーマに即した丁寧で熱心な教育指導を行いますので、学生の皆さんは自分自身の研究テーマをそれぞれ追究し、独自の研究成果を学位論文としてまとめたり、社会人としてスキルアップに必要な能力を獲得したりすることができます。

本学大学院には経済学研究科（博士前期課程・博士後期課程1専攻）と人文科学研究科（博士前期課程・博士後期課程3専攻）の2研究科があります。

また博士前期課程においては、経済学研究科では「研究者コース」と資格取得や社会人経験を生かしたテーマ研究を目的とする「高度職業人コース」、人文科学研究科では「専門研究コース」、教員、学芸員、専門社会調査士に求められる能力を獲得できる「キャリアアップコース」、社会人を対象とした「生涯学習コース」というかたちで、研究者の途を志す人たちだけでなく、多様な目的をもって大学院で学ぼうとする人々を受け入れる教育システムを備えています。

博士前期課程には早期修了制度も設けられており、一定の条件を満たすことで1年間で修了することが可能です。

海外の大学院との連携も強化し、2023年には西安外国語大学大学院のダブルディグリー学生が2名来日し、本大学院で学んでいます。

本大学院には多彩な研究分野の第一線で活躍する教授陣がおり、また、学部、大学院を問わず教員と学生との関係が親密で、学生が教員と常に対話をしながら勉学する環境があります。武蔵大学の大学院は、高度な専門知識の修得をめざし、創造的な研究を行おうとする皆さんの期待に確実に応えることができると確信しています。



学長 高橋 徳行
Noriyuki Takahashi

経済学研究科



本研究科は、大学の「教育の基本目標」に基づき、経済理論、経済史、応用経済、経営、経営情報、会計、ファイナンスに関する高度な専門知識・研究能力の獲得と、専門性の高い職業に就きうる知識と思考力の涵養を教育研究の目的とするとともに、あわせて経済社会の安定と発展に貢献しうる有為な人材を養成することを目的とします。

経済・経営・ファイナンス専攻

経済学研究科は、博士前期・後期課程とも「経済・経営・ファイナンス専攻」からなり、大学や研究所で研究者として活躍する人材を育成してきました。それが、後期課程に進むことを視野に入れて研究者をめざす人を対象とする「研究者コース」です。

この「研究者コース」に加えて、修了してすぐにも、身につけた専門的知識を生かして社会で活躍したいと希望する学部卒業生や社会人を対象に高度で専門的な知識の修得をめざす「高度職業人コース」を設けています。

学生は、専攻を深く研究し、また研究の裾野を広げるために、独自の履修プログラムを組み立てることができます。その研究を支えるために、博士前期課程の両コースとも、学生1名に対して本学専任教員の中から指導教授1名と副指導教授1名の計2名が履修指導と論文指導にあたる体制をとり、きめ細かな個別指導を行っています。

学位

博士前期課程 修士（経済学）
博士後期課程 博士（経済学）

取得できる教育職員の免許状

- 中学校教諭専修免許状「社会」
- 高等学校教諭専修免許状「公民」「商業」

博士前期課程

■ 研究者コース

博士後期課程への進学を前提に、学生には修士論文の作成が義務付けられます。研究テーマに応じて、約40名の専任教員の中から修士論文作成の指導を希望する指導教授を選択します。その指導教授と相談して履修科目を選択し、研究テーマに取り組みます。経済学研究科で開講されるすべての科目を広範に履修できますので、オリジナルな履修プログラムの編成が可能で、修士論文の作成に向け、適切で密度の濃い指導が期待できます。専任教員の研究テーマ・担当科目等についてはP.04～06を参照ください。

■ 高度職業人コース

原則として博士前期課程の2年間で、社会から要請されている高度な専門知識の修得をめざすコースです。このコースには、主に資格取得を目標とする「キャリア別プログラム」と、主に社会人経験者を対象とし、職場や社会における経験を生かした研究テーマに応じて研究を進める「テーマ別研究プログラム」が用意されています。

キャリア別プログラム

本コースは、博士前期課程修了後に就職を希望する学生を対象にします。修士修了後の希望職種に応じて、右記の4つのプログラムが用意されています。各プログラムで中核となる科目の担当教員の中から指導教授を選択し、プログラムごとに編成されたカリキュラムに従って、それぞれの職業で必要とされる基本的な能力の養成と専門的知見の形成を図ります。課題研究論文の作成をもって修士論文の作成に代えることができます。

【4つのプログラム】

■ 公務員プログラム

国家公務員Ⅰ種総合職（経済）、地方公務員上級一般行政系

■ 会計専門家プログラム

企業の経理・財務担当者の養成、公認会計士、税理士、USCPA

■ IT経営ストラテジストプログラム

情報処理技術者、Project Management Professional (PMP)

■ 証券アナリストプログラム

証券アナリスト、CFP（1級FP）

テーマ別研究プログラム

原則として、現時点で社会人であるか、または社会人経験のある方を対象とします。現在の職場で取り組んでいる、あるいはかつての職場で取り組んでいた仕事上の課題と、当プログラムで用意されている研究テーマが合致もしくは類似しているかどうかを事前に判断した上で、出願してください。

各研究テーマで中核となる科目の担当教員の中から指導教授を選択し、研究テーマごとに個別に編成されたカリキュラムに従って研究テーマに取り組みます。課題研究論文の作成をもって修士論文の作成に代えることができます。

【研究テーマ】

■ 企業の経営戦略

例）自動車産業と経営戦略

■ プロジェクト投資とプライベート・エクイティ投資

例）プライベート・エクイティ投資とエグジットに関わるサーベイ

■ 株式ポートフォリオ投資戦略に関わる研究

例）公共株投資の新技法開発

■ 地域経済の振興

例）練馬区経済の振興

■ 経済特区活用の事例研究

例）経済特区に関わる研究

■ アジア経済に関わる研究

例）アジアにおける経済統合と日本経済

■ 経済・経営のグローバル化に関わる研究

例）グローバリズムと日本企業

■ 自己設定テーマ（自身のキャリアの中で取り組んでいるテーマを希望する場合）

例）中国における飲用水供給プロジェクトの事業化の可能性

博士後期課程

博士後期課程は、博士前期課程と同様、「経済・経営・ファイナンス専攻」の1専攻のみによって構成されています。大学やシンクタンクなどの研究機関で研究活動に従事する研究者養成を目的とし、指導教授の指導と助言に基づいて研究テーマを定め、博士論文の完成をめざします。職に従事しながら博士論文完成を希望する方のために、指導教授等と相談の上、通常の講義時間曜限を越えて授業（平日夜間および土曜日午後）を開講することがあります。

研究テーマ・担当科目等

2025年度特別研究員となる教員、都合により新規指導学生を募集しない教員については、授業を開講いたしませんので、出願前にアドミッションセンターへご確認ください。

研究指導は以下の通り行っています。

	前期課程		後期課程	
	講義	演習	講義	演習
教授	○	○	○	○
准教授	○	○	○	
専任講師	○			

経済理論分野

氏名	研究テーマ	研究内容	担当科目	関連科目
阿部 景太	准教授 環境経済学、天然資源管理	水産資源を中心とした天然資源の管理政策の効果や影響について、計量ミクロ経済の手法を用いた実証分析を行っている。	応用ミクロ経済分析	計量経済学
伊藤 成康	教授 企業の生産性測定と経済指数に関する研究	企業活動の効率性若しくは生産性を表す数値指標の構築と応用に係る研究。特に、技術の変化が効率性指標に及ぼす影響の評価(感度分析)、既存指標間の乖離度評価に重点を置いている。当該分野へのノンパラメトリック統計学の応用にも関心がある。	応用ミクロ経済分析	産業組織論、計量経済学
笠松 怜史	准教授 グローバル環境下における政治的エージェンシー問題のゲーム理論的分析	グローバル環境下でのポピュリズム政治・政治的信頼とアカウンタビリティの関係性についてゲーム理論を用いて分析を行っている。	応用ミクロ経済分析	中級マクロ経済学、中級ミクロ経済学、産業組織論、応用ミクロ経済分析、財政論、計量経済学
佐藤 宇樹	准教授 計量経済学、経済統計学、空間統計学	人々の行動の観測から得られる社会科学データや、GPS情報などから得られる位置情報を持つ空間データを分析するための統計手法の開発を行っている。	計量経済学	中級ミクロ経済学、応用ミクロ経済分析、中級マクロ経済学、上級マクロ経済学
鈴木 唯	教授 国際経済学、開発経済学	広い意味での経済のグローバル化―財・サービスの貿易の深化のみならず国際金融市場の発達に伴う国際資本取引の拡大も含め―が各国経済にもたらす諸影響について研究している。	上級マクロ経済学	中級マクロ経済学、中級ミクロ経済学、計量経済学、開発経済学、国際経済学
蓮見 亮	教授 マクロ経済学、ベイズ統計学	動学的一般均衡モデル(ニューケインジアン・モデル、ヘテロジニアス・エージェント・モデルなど)を用いた理論・実証両面からのマクロ経済の分析。最近では、平均場ゲームの応用に関心を持っている。	経済動学	上級マクロ経済学、現代金融論
松川 勇	教授 公益事業の料金規制	電力産業を中心として、公益事業における料金規制のあり方を検討する。具体的には、ピークロード料金、ノードル料金、ラムセイ料金などを例にして経済学的な観点から分析する。	応用ミクロ経済分析	中級ミクロ経済学、産業組織論

経済史分野

氏名	研究テーマ	研究内容	担当科目	関連科目
河合 康夫	教授 近代イギリス経済史	19世紀イギリスの貿易政策、特に自由貿易政策の形成・展開過程について、当時の政策論争を中心に研究している。	西洋経済史	日本経済史、社会思想史
攝津 斉彦	教授 近代日本経済史	日本を含むアジアの長期経済統計の整備と、他国との比較を通じた日本の経済発展過程の分析。特に経済発展におけるサービスセクターの役割に注目している。	日本経済史	西洋経済史、開発経済学、中級マクロ経済学、経営史
根元 邦朗	教授 比較政治学(選挙、政党、議会、アジア太平洋)	アジア太平洋諸国における議員行動、選挙制度と代表性、政党組織の比較研究。	社会思想史	政治経済学、西洋経済史、日本経済史、世界経済論、開発経済学、国際経済学

応用経済分野

氏名	研究テーマ	研究内容	担当科目	関連科目
小川 俊明	准教授 マクロ経済学、金融論	銀行等の金融仲介を含むマクロ経済モデルを開発し、政策効果等を分析する研究を行っている。	現代金融論	中級マクロ経済学、上級マクロ経済学、金融機関
神林 龍	教授 労働経済学、法と経済学	日本の労働市場の構造についてデータを中心に考察している。雇用慣行などの制度、労働法などの法律のほか、規範形成などさまざまな要素の与える影響について研究している。	労働経済学	応用ミクロ経済分析、計量経済学、中級ミクロ経済学、日本経済論、人事管理
田中 健太	教授 産業組織論、環境経済学、実験経済学	環境、エネルギー政策を中心とした政策の効果分析、並びに政策の与える企業、消費者行動に対する影響について、計量分析手法や実験経済学を応用した実証分析を行っている。	産業組織論	中級ミクロ経済学、応用ミクロ経済分析、計量経済学
釣 雅雄	教授 経済政策、日本経済、マクロ経済学	マクロの視点で日本における経済政策の効果を分析している。財政・政府債務、家計消費・貯蓄、金利動向、インフレ率など経済政策に関わる経済動向についてもあわせて分析している。	日本経済論	中級マクロ経済学、財政金融論、計量経済学

氏名		研究テーマ	研究内容	担当科目	関連科目
二階堂 有子	教授	インド経済、開発経済学	インドの経済発展について他国の経験と比較しながら研究している。特に企業や産業が経済発展に果たす役割や女性のエンパワメントについて研究を行っている。	世界経済論	開発経済学、国際経済学、中級マクロ経済学、中級ミクロ経済学、計量経済学、国際経営
原 朋弘	専任講師	開発経済学、政治経済学、行動経済学	開発途上国における差別や偏見に関する諸問題を定量的に分析している。	開発経済学	応用ミクロ経済分析、計量経済学、世界経済論、労働経済学
広田 啓朗	教授	地方財政、公共経済学	主に地方財政や政府間財政関係の実証分析に取り組む。市町村合併や道州制などの理論的背景やヒアリング調査を交えた実態把握と、地方財政データを用いた実証分析を行っている。	現代財政論	応用ミクロ経済分析、計量経済学、財政論

経営分野

氏名		研究テーマ	研究内容	担当科目	関連科目
伊藤 誠悟	教授	組織論、イノベーション	リーダーシップなどの組織要因がメンバーの創造的な行動に与える影響を研究している。	市場戦略	組織行動、経営戦略、マーケティング
大平 修司	教授	マーケティング、消費者行動	マーケティングの中でもソーシャル・マーケティング、消費者行動の中でもエシカル消費について、定性研究と定量研究を組み合わせた混合研究法を用いて研究を行っている。	マーケティング	市場戦略、国際経営、ベンチャー企業、経営組織、組織行動、経営戦略
鈴木 真也	教授	研究開発活動の国際化	企業による研究開発活動の国際化や国境を越えた組織間連携に関して、主に企業レベルのデータと統計的手法を用いて定量的な分析を行っている。	国際経営	経営戦略、市場戦略、経営組織、国際経済学、計量経済学
鈴木 正明	教授	アントレプレナリシップ、起業活動	起業活動の時系列変化や地域差を生み出す要因について実証的な研究を行っている。	ベンチャー企業	経営戦略、市場戦略、計量経済学、産業組織論
土屋 直樹	教授	人事労務管理、労使関係	日本企業の人事労務管理、日本の労使関係。	人事管理	国際経営、日本経済史、日本経済論、労働経済学、経営史
内藤 知加恵	准教授	ダイバーシティ、フォールトライン、インクルージョン	組織内の個人属性が組織成果に与える影響について、定性・定量的両面から研究を行っている。	組織行動	経営組織、国際経営
古瀬 公博	教授	組織論、経済社会学	市場はどのような仕組みで動いているのか、市場はどのようにして生成するのか。このような市場に関連する問題について、社会学的な観点から、主に定性的な調査方法を用いて研究している。	経営組織	マーケティング、経営戦略、ベンチャー企業、経営史
山崎 秀雄	教授	新製品開発と組織	日本の製造企業を主な対象に、新製品の創出過程と経営諸要因との関係について理論と実証の両面から研究を行っている。	経営戦略	市場戦略、経営組織、組織行動

経営情報分野

氏名		研究テーマ	研究内容	担当科目	関連科目
荻野 紫穂	教授	テキスト分析を利用したサービスの質の計測	企業やそのサービスの質の計測に、数値等の定型情報だけでなく、企業からのメッセージや利用者の感想等のテキストデータも分析して利用する手法を考察する。	情報コミュニケーション	経営情報マネジメント、意思決定システム、マーケティング
下川 拓平	教授	数理システム理論	社会、組織、制度の深層構造を明らかにするため、構造数学、数理経済学、ゲーム理論（協力、非協力双方）、数理統計学を利用。各種アルゴリズムを開発、検証し計算機実験を行う。	数理システム	経営情報マネジメント、応用ミクロ経済分析、金融工学
竹内 広宣	教授	経営統計、人工知能技術とその応用	企業内に蓄積されたデータの活用や新しい情報システムを構築する手法に関する研究を行う。	経営情報マネジメント	情報コミュニケーション

会計分野

氏名		研究テーマ	研究内容	担当科目	関連科目
海老原 崇	教授	会計情報の有用性に関する実証研究	会計情報の意思決定有用性の観点から、投資家の意思決定と会計情報の関連性に焦点をあてた実証研究を主に行っている。現在は、利益情報の質に注目し、コーポレート・ガバナンスとの関係性について研究を行っている。	財務報告論	財務会計論、コーポレートファイナンス、証券市場
高橋 由香里	准教授	財務会計	企業におけるM&A（合併・買収）を中心とした投資行動の特徴と、会計制度との結びつきに関する実証的分析	財務会計論	財務報告論、国際会計論、コーポレートファイナンス、経営戦略
豊田 俊一	教授	資本市場インフラとしてのディスクロージャー制度およびそれを支える会計基準のあり方	資本市場機能を十全に発揮できるよう、投資意思決定に有用な財務情報を提供するための会計基準改革に向けた努力が国際的に加速している。にもかかわらず、会計情報のこの目的に対する有用性は、逆に近似大幅に低下してきているとの実証的証拠が突き付けられている。今期は、営利企業を対象とする「会計」の本質、その対象となる「営利企業活動」の本質、さらには会計情報の利用目的である「投資意思決定」の本質等、「原点」に遡って一つ一つ丁寧に再検討を積み重ねることで、問題の本質に迫ることを目的とする。	国際会計論	財務会計論、企業法、コーポレートファイナンス、証券市場

氏名		研究テーマ	研究内容	担当科目	関連科目
水島 治	教授	株式会社制度についての解釈論的・立法論的研究	結合企業におけるコーポレート・ガバナンスについての比較法的研究。	企業法	財務会計論、コーポレートファイナンス、証券市場
山下 奨	教授	財務会計、国際会計、経営分析	国内外の会計・開示制度や会計基準の研究。基礎概念と会計基準の整合性や会計基準間の整合性、会計基準がもたらす帰結等に関する研究を行っている。	財務会計論	財務報告論、管理会計論、国際会計論、租税法、企業法、コーポレートファイナンス、証券市場、経営戦略

ファイナンス分野

氏名		研究テーマ	研究内容	担当科目	関連科目
大野 早苗	教授	国際金融、国際ファイナンス	新興国市場の資本フロー、為替ヘッジ、不確実性要因の資産価格への影響など、グローバル資本取引のトピックスに関する実証分析を行う。	国際ファイナンス	経営組織、国際経営
神楽岡 優昌	教授	数理ファイナンス、金融工学	株式や債券、デリバティブ、証券化商品、コモディティの価格およびリスク評価を目的とした、数理モデルの構築および市場データによる実証分析。	金融工学	コーポレートファイナンス、インベストメント、証券市場、経営ファイナンス統計
北村 智紀	教授	資産運用・インベストメント	少子高齢化が進み、公的年金の給付削減が予測されるなか、資産運用は誰もが関わる重要な課題である。投資信託の運用評価、年金資産運用、投資家行動、個人の就業・資産形成のあり方、証券市場に関わる政策評価等を分析する。	インベストメント	コーポレートファイナンス、証券市場、金融工学、金融機関、国際ファイナンス
茶野 努	教授	金融論、リスクマネジメント	金融機関は市場リスク、信用リスク、流動性リスク、オペレーショナルリスクなどさまざまなリスクにさらされている。最新の理論動向やベストプラクティスをもとに、統合リスク管理(ERM)について考察する。	金融機関	コーポレートファイナンス、金融工学、証券市場、インベストメント
徳永 俊史	教授	実証ファイナンス	将来の株価(企業価値)が、会計情報、金融・経済指標、投資家・消費者の行動、企業経営者の行動、取引規制や政策の変更などどのように関係しているのかを実際のデータを使って分析する。	コーポレートファイナンス	財務会計論、国際ファイナンス、証券市場、金融工学、インベストメント
中嶋 幹	准教授	コーポレートファイナンス、コーポレートガバナンス	コーポレートファイナンスに関するトピックをはじめ、コーポレートガバナンスに関する実証研究を行う。	証券市場	コーポレートファイナンス、インベストメント、計量経済学、経営ファイナンス統計

論文テーマ一覧

博士前期課程（2023年度）

- ・のれんの償却期間に関する検討
ー 会計基準の変遷をとおしてー
- ・株主構成と利益マネジメント
ー コーポレートガバナンスの実効性に基づく実証研究ー
- ・情報感染モデルと、仮想的市場シミュレーション
- ・取引相場のない株式の評価について
ー 評価方法に関する現状の課題と制度化の検討ー
- ・日本における外国人投資家のハーディング行動と株価変動

博士後期課程（2016年度～2023年度）

- ・Empirical Analysis of Payout Policy in Japan
- ・自己相似過程と対数株価の自己相似性について
- ・後発企業の自主製品開発能力の形成経路
ー 50-80年代の第一汽車と中国重汽の技術活動に関する比較分析からー
- ・「近年におけるバラッサ・サミュエルソン効果の変動」
ー 実質為替レート・内外価格差の検証ー
- ・「J-REITの実証研究」
ー 二つの新しい視点からの検証ー

人文科学研究科



本研究科は、大学の「教育の基本目標」に基づき、専攻分野に関する高度の専門知識および能力を修得させ、関連分野を横断する学際的素養を培うことを教育研究上の目的とし、国内外において、卓越した学識をもって教育研究機関で活動する研究者や文化と社会の発展に貢献する職業人を育てることを人材養成の目的とします。

欧米文化専攻 / 日本文化専攻 / 社会学専攻

人文科学研究科は、欧米文化専攻、日本文化専攻、社会学専攻の3専攻からなり、多様な専門科目を履修した上で、自らの関心に合わせた研究をおこなうことができます。各専攻には多彩な授業科目が開かれており、超域のあるいは横断的な研究が可能なカリキュラムとなっている点も本研究科の大きな特長です。

本研究科には専攻ごとに大学院生専用の研究室があり、各自が自身の研究の充実を図るだけでなく、課程・コース等の別なく互いの研究について相談したり議論できる場になっています。

学位

欧米文化専攻	博士前期課程 修士（人文学）	博士後期課程 博士（人文学）
日本文化専攻	博士前期課程 修士（人文学）	博士後期課程 博士（人文学）
社会学専攻	博士前期課程 修士（社会学）	博士後期課程 博士（社会学）

取得できる資格・免許状

欧米文化専攻

- 中学校教諭専修免許状「英語」「社会」
- 高等学校教諭専修免許状「英語」「地理歴史」
- 学芸員研究能力開発プログラム修了証

日本文化専攻

- 中学校教諭専修免許状「国語」「社会」
- 高等学校教諭専修免許状「国語」「地理歴史」
- 学芸員研究能力開発プログラム修了証
- 日本語教員プログラム修了証

社会学専攻

- 中学校教諭専修免許状「社会」
- 高等学校教諭専修免許状「公民」
- 学芸員研究能力開発プログラム修了証
- 専門社会調査士（博士前期課程のみ）

欧米文化専攻

英米文化、ドイツ・フランスを中心としたヨーロッパ文化、比較文化の専門的な研究を軸にしながら、既存の分野の枠組を越えた「学際的」な研究を多面的に追究できるように構成されています。

1. 英語圏、ドイツ語圏、フランス語圏の各地域に関連する多様なテーマについて専門的な研究を行うことができます。
2. 欧米という文化圏の歴史的・社会的・文化的な類縁関係を視野に入れて、より深く学び、考えることができる場になっています。
3. 「言語・文学」「思想・歴史」「比較文学・比較文化」の3分野を核に授業科目が構成されており、相互の関連の中で学び、研究することができます。

日本文化専攻

日本文化・東アジア文化の多様性に対応できる研究方法と専門知識を修得できるように構成されています。

1. 日本語学・日本思想史・日本古典文学・日本近代文学・日本社会文化史・日本民俗史・日本生活文化・日本芸能史・東アジア文化などに関する学際的かつ専門的な研究を行うことができます。
2. 日本語教員プログラムを修了すれば高い専門性をもった日本語教員になることができます。
3. 韓国高麗大学校や中国西安外国語大学からの交換留学生をはじめとする各国の留学生など、多様な学生が在学しています。これら海外協定校への留学もできます。

社会学専攻

人間同士のコミュニケーションが織り成す総体としての社会を、マクロ構造からミクロ相互作用まで、社会学が培ってきた専門知識を基軸に、歴史的・領域横断的に学べるよう構成されています。

1. 「システム」「メディア」「カルチャー」を現代社会学のキーコンセプトとして設定し、それぞれに対応する専門分野を置いています。さらに、「ジェンダー」のように分野を横断する領域の研究を進めることも可能です。
2. 発足当初から社会人入試を実施し、研究者だけでなく、専門的職業人の養成に力を入れています。
3. 座学にとどまらない社会調査の実践を重視し、アンケート調査、フィールドワーク、インタビュー調査、メディアリサーチなどの社会学的調査手法を取り入れた研究法を学ぶことができます。

博士前期課程

3専攻それぞれに3つのコースが設けられています。

■ 専門研究コース

希望する研究テーマにそって多様な科目の中から一定の条件にしたがって30単位以上の科目を履修し、加えて修士論文を作成するコースです。志願者が提出した研究計画書、入試の口述試験結果等に基づいて、入学時に各学生の指導教授が決定されます。履修科目の選択から修士論文作成に至るまで、さまざまな過程で指導教授より研究指導を受けることができます。

このコースでは、指導教授による修士論文作成指導のための演習が必修科目となっており、きめ細かな指導を受けることができます。

■ キャリアアップコース

教員、学芸員、専門社会調査士などの専門的な職業に就くために必要とされる能力を身につけ、自らの知見を伝達するための表現力を培い、修士論文の代わりに特定課題研究に取り組むコースです。以下の3つのプログラムがあります。

1. 教員能力開発プログラム
2. 学芸員研究能力開発プログラム
3. 専門社会調査士資格取得プログラム

Ⅰ 専攻横断科目について

「教員能力開発プログラム」「学芸員研究能力開発プログラム」のために用意された科目群で、3専攻にわたって開講されています。他のコース・プログラムの学生も履修要件の範囲内で履修することができます。

(1) 教員能力開発プログラム対象科目

教育実践研究
教育実践専門演習

(2) 学芸員研究能力開発プログラム対象科目

博物館文化資源学研究
博物館文化資源学実習
文化財科学研究

■ 生涯学習コース

主として社会人を対象にしたコースで、各自の研究テーマに基づいて科目を履修します。下記の研究テーマ例を参考に指導教授と相談して履修計画を立て、高度な教養や専門的知識の修得、語学力の向上など、それぞれの目標の達成をめざします。

- | | | |
|-----------|-------------|--------------|
| ・語学力強化 | ・文化交流研究 | ・ヨーロッパ中世研究 |
| ・日本伝統文化研究 | ・総合的ジェンダー研究 | ・地域・市民メディア研究 |

※上記3つのコースのすべてにおいて、一定の条件を満たせば1年での修了が可能となる「早期修了制度」が適用されます。

職業を有している学生等を対象に3年または4年かけての修了が可能な「長期履修学生制度」もあります。修了までの学費の総額は2年修了の場合と同様です。いずれも、詳細はP.15をご参照ください。

※キャリアアップコースと生涯学習コースでは、修士論文の代わりに「特定課題研究（リサーチペーパーや調査報告書など）」の提出が求められます。

博士後期課程

博士後期課程は、博士前期課程での研究をさらに深めようとする人のために開かれており、3年以上在学して指導教授の担当する「特別演習」12単位以上を修得するとともに、指導教授の指導を受けて博士論文を提出し、審査に合格すれば、博士の学位が授与されます。博士前期課程と同様に、欧米文化専攻、日本文化専攻、社会学専攻の3専攻に分かれており、入学試験も専攻ごとに行われます。

研究領域・担当科目等

2025年度特別研究員となる教員、都合により新規指導学生を募集しない教員については、授業を開講いたしませんので、出願前にアドミッションセンターへご確認ください。

＊：博士後期課程担当者

○：授業および研究指導は英語で行われます。また、指導学生は論文を英語で執筆する必要があります。

欧米文化専攻

氏名		研究領域・内容	担当科目の内容	近年実施した研究指導の内容
踊 共二*	教授	西洋史(ヨーロッパ中世・近世史)、日欧交流史。宗教改革以後のドイツ、スイスにおける宗教的対立と和解・調停の歴史。16世紀以後のヨーロッパ人の日本観・日本文化論。	講義:中近世ヨーロッパ文化史は、政治的・言語的・文化的・宗教的境界が重なり合うアルプス地域(スイス一帯)に注目し、越境と交流と文化的生成の諸相をさぐる。ゲテの『スイス紀行』『イタリア紀行』のような旅行文学を用いる。演習:ヨーロッパの社会と文化は、15世紀以降のヨーロッパの対外的拡張の歴史を調べる(欧文の文献を読む)。	博士後期課程では18世紀のイタリア都市ヴェネチアの社会・政治に関する最新の文献を紹介しながら、女性の自立的職業生活に関する史料調査・実証研究・論文作成を行うための指導を行った。博士前期課程では20世紀のイギリスとアメリカの社会・政治と大衆音楽に関する最新の文献を紹介しながら、ジェンダー史ないしクィアスタディーズの視点による実証研究・論文作成を行うための指導を行った。
桂 元嗣*	教授	中欧文化論、ドイツ文学。ムーヰルを中心とするモデルネ以降のドイツ文学研究。特にハプスブルク帝国時代の経験や記憶が作家の語りに及ぼす影響について。	講義「ドイツ・モデルネの小説と批評」では、近現代のドイツ語圏の散文を精読し、モデルネという時代の特徴や問題意識を明らかにする。演習「中欧文化圏のドイツ語文学」では、「中欧」概念を理解するのに重要な論文や文学作品を分析し、中央ヨーロッパの文化的多様性とともに、国や民族を超えた文化的まとまりを読み取る。	講義はムーヰル、カフカ等の小説を中心に精読。演習は19世紀末～現代までの中欧の思想状況・文化理解に必要な論文や作品を精読。近年集中的に取り組んだ文献としては以下がある。Karl-Markus Gauß: Abenteuerliche Reise durch mein Zimmer. Wien 2019.
北村 紗衣*	教授	シェイクスピアを中心とする近世イングランド演劇。とくにフェミニスト批評、ファンダム研究を中心とする観客論、映画を中心とする翻案研究。	講義: 近世イングランド演劇。シェイクスピア史劇の材源について考える。演習: イギリス・アイルランド演劇上演研究。シェイクスピアの戯曲『ヘンリー五世』を手がかりとし、近世イングランド演劇における権力の表象を考える。	受講者の関心にあわせて近世イングランドの戯曲およびその周辺文献を精読し、関連する論文を読みつつ分析する。
木元 豊*	教授	フランス文学。ヴィリエ・ド・リラダンという作家を中心に19世紀後半のフランス文学、とりわけ小説を研究。	講義:19世紀フランス文学。文学研究書や理論書のフランス語による読解を通じて、19世紀フランス文学研究に必要な能力を培う。演習:19世紀フランス小説。19世紀後半の小説を中心に、フランスの文学作品を読解する。	フランス幻想文学史に関する著作とジャック・カブットやジェラール・ド・ネルヴァルの作品の抜粋を原書で精読し、フランスにおける幻想文学の発展に関して理解を深めた。
黒田 享*	教授	ドイツ語学、北欧語学、比較言語学、言語政策。歴史的变化・地理的差異を視野に入れたドイツ語語用論・統語論・形態論研究、ゲルマン語・日本語文法比較、言語権保護政策。	講義:ドイツ語文法の歴史的変遷。風格の振る舞いの歴史的变化を出発点に現代ドイツ語属格の統語的機能を理解する。演習:中世ドイツの言語状況。中世ドイツ語で書かれた古文書に取り組み、中世ドイツ語圏社会の言語状況を考える。	日本語を中心としてドイツ語・英語・フィンランド語・中国語などの様々な文法現象を俯瞰しつつ、言語の比較対照研究について講義した。その際には特に、系統関係がない言語を比較する方法論を重点的に紹介した。
小森 謙一郎*	教授	ヨーロッパ思想史・哲学。とくに19世紀以後のヨーロッパ思想を軸に研究している。	講義・演習:現代哲学関連の原書精読を通じて、政治哲学を批判的に考察する。いずれにせよテキストの読み方に留意する。	前項の内容にて指導。
佐藤 蘭香	教授	イギリス近現代史。ジェンダー史。主に20世紀初頭のイギリス女性参政権運動史の行進やポスターなどの視覚的なプロパガンダについて研究。	講義:ジェンダー史における主要な研究文献を精読し、ジェンダー史という研究分野の発展、変遷について議論します。演習:イギリス近現代ジェンダー史。この授業では、イギリス近現代ジェンダー史を概観します。イギリスでどのようにジェンダー史が発展したかを考え、ジェンダー史の主要なテーマについて学び、議論します。	前項の内容のとおり、イギリス近現代史、ジェンダー史に関する研究テーマについて指導します。
嶋内 博愛*	教授	文化人類学、ドイツ民族学、伝承研究。主に死者に関する民間伝承の分析、死生観に関する研究、祝祭研究(とくにカルナヴァル、火祭り)、エスニックマイノリティに関する研究。	講義:民族学的視座からのヨーロッパ研究、演習:日欧の祝祭・生活文化研究。これらの授業では、自らの他者性を意識しながらヨーロッパの民衆文化・生活文化に對峙し、それらを相対化する。この作業を通じて、文化相対主義的な視線を涵養する。	関連分野も含む文献(フリーザー「金枝篇」、バルトルシャイティス『幻想の中世』、サイド『オリエンタリズム』、ル・ゴフ『聖王ルイ』、Gélis: Die Geburt. Volksglaube, Rituale und Praktiken von 1500-1900. などの(原書)講読、討論。
地村 孝充*○	教授	世界遺産と観光(特に世界遺産登録と観光の地域社会・遺産保護への影響)。観光地としての英国と日本(特に文化遺産の観光資源としての利用)。観光マーケティング。持続可能な観光。	講義:英米の文化研究(英米文化の観光利用研究)。演習:英米の文化専門演習(英米文化遺産・世界遺産研究)。欧米文化研究指導演習(英米文化遺産・世界遺産研究)。欧米文化特別演習。	英国リバプール・ジョン・ムーア大学にて修士課程MSc International Tourism Management をプログラム・リーダーとして統括してきた。また同大学にて観光学専攻の博士研究指導にも従事。世界遺産や有形・無形文化遺産と観光の関係に関し、地域社会や遺産保護の観点から研究を指導。
パトリック・シュウェマー	准教授	室町末期江戸初期・大航海時代日本の表象文化。能楽、幸若舞、古浄瑠璃、奈良絵本・絵巻、仮名草子、説話、肖像画・頂相、禅文学、キリシタン文学、近世琉球。	講義:近世日欧文化交流。演習:近世日欧文化交流。	異文化・階級・ジェンダー間などの交流において記号と所作の意味作用を目で追うという技能を鍛えている。
瀧本 みわ	准教授	西洋美術史。主に、古代末期美術、初期キリスト教美術の研究。また、西洋美術における「古典」研究、図像学、身体表現。	講義:「西洋美術史・図像の形成と伝播」では、フランス語文献を通して、古代末期から中世末期までのキリスト教図像の生成と変容、そして発展を考察する。演習:「ヨーロッパの美術・図像学研究」では、フランス語文献を基盤に、中世、ルネサンス、バロック、ロココ、新古典主義、ロマン主義、風刺画といった様々な時代の視覚芸術における情動と身体表現について、歴史的、社会的背景から読み解くことを試みる。	前項の内容により、西洋美術史研究の方法論の習得を目指し、学生自身の研究テーマへと展開できるよう指導を行う。本年度は「窓」をモチーフとした絵画表現に関する外国語文献を精読し、「室内と屋外」という空間認識、「内と外」の概念、「見る、見られる」の視線に関する考察と議論を行っている。

研究領域・担当科目等

*: 博士後期課程担当者 ○: 授業および研究指導は英語で行われます。また、指導学生は論文を英語で執筆する必要があります。

氏名		研究領域・内容	担当科目の内容	近年実施した研究指導の内容
谷 憲治*	教授	応用言語学、語彙分析、英語の歴史。コーパスによる語彙頻度分析と、文化の違いによる語彙理解。Public Diplomacy	講義:歴史のおよび統計的語彙分析。演習:コミュニケーションにおける文化的差異や現在の語彙習得論における問題などの研究。	第二次世界大戦における日米の情報戦。ハルノートを中心に研究指導。
土屋 武久	教授	応用言語学、英語教育。英語教育の実証的、科学的リサーチの方法。	講義・演習:メディアの英語・応用言語学。英語教育リサーチの実証的、客観的裏付けを考察し、リサーチとは何か批判的に検討する。	英語学習・教育は、英語メディアとの接触に他ならない。メディアとの批判的につきあい方を、原書を講読しながら考えてゆく。
角田 俊男*	教授	英語圏の思想・文化史、およびその古代や他地域との関連。近世英語圏の思想・文化を古典古代の伝統の継承発展、非西欧地域との交流の観点から追究する。	講義:英米思想史について、英米近代思想における宗教の重要性を理解するため、宗教改革と宗教戦争後の宗教と文明社会の関係を、啓蒙の宗教論に読む。演習:英語圏文化への古代の法や市民の伝統の受容を理解するために、近現代の民主政の議論を探究する。	現代英国の多文化主義における人種主義問題の研究を指導した。
直井 一博	教授	学びの社会性からみた英語学習と指導の諸相の探究。	社会性(様々な主体間、要因間のつながり・協力・相互関係やパワー)に着目した英語学習・指導の諸相の考察。	講義(英語コミュニケーション研究): Joan Kelly Hall. <i>Essentials of SLA for L2 Teachers - A Transdisciplinary Framework</i> . Routledge, 2019. の批判的理解と応用課題。演習(英語コミュニケーション専門演習): Amy Tsui. <i>Introducing Classroom Interaction</i> . Penguin Books, 1995. の批判的理解と応用課題。
新納 卓也	教授	ウィリアム・フォークナーをはじめとする南部作家や20世紀前半のアメリカ人作家による小説作品の研究。	講義「アメリカ文学研究(20世紀アメリカ小説)」:ウィリアム・フォークナーの諸作品を取り上げ、人種・ジェンダー・階級をめぐるアメリカ南部の社会規範の圧力のなかで生きる主人公たちの苦悩を浮き彫りにする。演習「アメリカ文学専門演習(20世紀アメリカ小説)」:「八月の光」を人物達の無意識を含む内面に焦点をあてつつ精読する。	ウィリアム・フォークナーの作品を対象として、主要人物の南部人アイデンティティの分析を行う研究を指導。
平野 千果子*	教授	フランス植民地史、比較帝国史、ヨーロッパ近現代史。フランスを中心としたヨーロッパの歴史を、植民地やヨーロッパの外部世界との関係・交流という視角から研究している。	講義・演習「ヨーロッパ近現代・対外交流史」:ヨーロッパとその外部世界との関係・交流の歴史を、社会・文化史的側面から考察する。それにあたり人種・ジェンダー・歴史認識は、主要なキーワードとなる。	歴史を多面的、多角的に捉える姿勢を身に着けるべく、ヨーロッパの異世界に対する「他者認識」の形成を素材として探究を進める予定である。
ジェイソン・ホロウェル [○]	教授	Linguistics, First and Second Language Acquisition, Bilingualism, Language Education & Use. Investigation into the characteristics of language and process of language acquisition in children and adults.	Students will learn about the various aspects of language acquisition and investigate from the perspective of the language user. Students will develop an individual research project, which will culminate in a report and presentation.	In a recent past research project, a student analyzed the internal consistency of English entrance examinations as well as performing item analysis to determine the degree to which tests are providing meaningful information to decision making entities.
ブライアン・マサハート [○]	准教授	Japan-US relations, Comparative politics.	講義:Comparative Politics. Examination of transnational issues and the challenges confronting states and their citizens in the 21st Century.演習:Japan-U.S. Relations.Examination of key aspects of the relationship developed from the mid-20th Century to present.Special emphasis is placed on exploring the future relations between the two countries.	
ポール・ミンフォード [○]	教授	British and Postcolonial Literatures, especially 20th century and contemporary novels. Migrant literature, British-Asian literature. Multiculturalism, cosmopolitanism, posthumanism.	〔講義:20世紀英語文学〕Nation, race, and belonging in twentieth century literature in English. 〔演習:現代英語小説の諸テーマ〕Issues surrounding culture and identity in contemporary novels in English.	Students are encouraged to consider issues of identity and belonging through close reading and analysis of literary works in their particular contexts.
望月 ゆか*	教授	フランス近世宗教思想、キリスト教史。パスカルのキリスト教的人間観。ポール・ロワヤル、ジャンセニスムの神学論争書における霊性研究。	講義・演習:16-17世紀フランス思想。『パンセ』『恩寵文書』などのパスカル諸作品の講読。アウグスティヌスやルターなどの関連テーマとの比較。	聖書の「空しさ」に関する霊性の史的考察。厳密な原典講読並びに独自の論文を書くための「裂け目」をいかに見つけるかの指導。

日本文化専攻

氏名		研究領域・内容	担当科目の内容	近年実施した研究指導の内容
石井 龍太*	教授	琉球諸島の中近世考古学。特に集落調査を通じた新たな琉球史を探索。地域キャラクターコンテンツ。特にローカルヒーローの有用性を検証し発展させるための研究を行う。	「琉球・沖縄文化研究」琉球諸島の歴史・文化に関する論文や一次資料を精読し検討すると共に、考古学に関わるフィールドワークの技術も学ぶ。 「生活文化研究」地域キャラクターコンテンツに関する論文を精読すると共に、インタビューや実際の運営を体験する調査の技術を学ぶ。	教室で基礎的な知識と技術を磨き、フィールドに出て研究対象と取り組み、地域に還元する研究指導を行っている。考古学が明らかにする「古い文化」、キャラクターが生み出している「新しい文化」を一続きのものとして学ぶ場を作り出し、指導している。
漆澤 その子*	教授	日本の近現代における芸能社会史。日本の近現代および近世の芸能(特に歌舞伎)を通じた時代社会像の構築をめざし、特に芸能の「伝統」化に関する研究を進めている。	講義:前近代の芸能と社会文化、演習:近代の歌舞伎に関する史料研究。近世・近代の歌舞伎を中心とする芸能に関する諸論文を検討しながら、芸能史研究に関する問題点について考える。	例年履修した者の専門領域に考慮しつつ、関連する論文の検討と史料購読を行いながら、修士論文に向けた研究への取り組みについて考える。

氏名		研究領域・内容	担当科目の内容	近年実施した研究指導の内容
黒岩 高*	教授	東洋史。中国ムスリムの社会史、文化史。非ムスリムとムスリムの間の社会的関係の変化や文化的交流が分析対象。	講義:アジア社会の歴史、演習:前近代アジア社会の歴史。アジアの文化・歴史に関する専門書・論文の検討を通じ、アジア世界への独自の視野を獲得する。また、原典講読を通じて外国語文献の活用に必要な読解力を養成する。	民族紛争や宗教対立として取り上げられている出来事が、民族や宗教の違いによるものばかりではなく、他の社会的要因や経済的要因に根ざしている場合も多いことを見出す手法などを指導。
戸塚 学*	教授	日本近現代文学。特に1930年代の日本のモダニズム文学、作家の翻訳行為と創造行為との関連について研究を進めている。	講義:明治～昭和までの日本近現代文学の精読。演習:履修した者の専門領域や興味関心を考慮して、修論執筆に寄与する発表を定期的に行う他、論文テーマを深めることに資する周辺の文学作品や研究論文を読む。	上記のような観点に基づき、文学作品(詩・小説・戯曲・批評)の講読および文学理論の講読を行い、定期的な発表を元に議論する。最近では、受講者の専門や関心に基づき、日本近代の幻想小説や自然主義の評論・作品などを精読した。
福田 武史*	教授	日本上代文学、比較文学、幼学書・古典学の影響。	講義:古代文学講読。重要な先行研究を紹介し、研究史をたどりながら古事記・日本書紀・万葉集の歌を読んでいく。演習:古代文学研究方法論。漢字で書かれた文献を読解するために必要な漢籍に習熟し、その知識と手法をもとに日本の古典を精読する。	研究の基礎として、前近代の日本人がリテラシー(漢字の読み書き)と教養をいかに獲得したのかという点を学び、それをできる限り追体験する。また、最近の授業では研究史上重要な論文を受講生が読み、その内容を吟味・批判するという講読の授業をおこなっている。
福原 敏男*	教授	日本民俗学、日本文化史、日本祭礼史、日本風流史。祭りのなかの役割(一つもの)、各地の祭礼絵巻、聖地・雪場を描いた参詣曼荼羅、浚渫作業砂持ちに伴う風流などの実証的研究。	講義:京都歴史民俗研究では、京都の年中行事書を読む。演習:江戸歴史民俗研究では、『東都歳事記』という近世後期の江戸歩きガイドブックを輪読し、斎藤月岑という町名主の目を通して江戸の寺社や名所について学ぶ。	長野県千曲市の雨宮御神事という祭礼に関して、修士論文を執筆している院生とともに同祭礼を検討した。一緒に参与観察(フィールドワーク)に赴き、ゼミでは研究史整理や関係古文書の解読を行った。
丸山 伸彦*	教授	日本の染織史・服飾史。日本の染織とその表現の場である服飾について、特異な発展を遂げた文化的特質を探るべく、美術史的立場から研究を進めている。	講義・演習:中近世の型染史研究。江戸時代に記された文献史料と実物の遺品を研究素材とし、近世から近代に至る意匠・技法の展開を検証していく。	小袖などの実物資料、服飾を捉えた絵画資料、関連の文献資料等の有機的な活用手法を指導し、論文執筆を前提とした実践的研究を推進していく。
水口 拓寿	教授	中国思想史。「術数」および「礼楽」の理論史、また両者に関する儒教知識人の言説史を、主に宋代～清代中期の中国について研究している。	講義:中国思想史研究、演習:中国古典学研究。中国思想史に関する一次資料(古典漢文)を教材として、テキストを一字一句まで精確に読解すると共に、それに基づく討論において、テキストに記述された思想を深く掘り下げる。いずれも受講生の主体的な参加が不可欠である。	清代乾隆47年(1782年)に成立した『四庫全書総目提要』全200巻は、清朝考証学の偉大な足跡であると同時に、伝統的な「知」の世界に対する総括の試みでもある。この巨篇を毎年継続して取り上げ、順次読解と討論の対象とする。
桃崎 有一郎*	教授	日本の古代・中世史。幕府・朝廷などの政治・法制・規範・文化などから、〈日本中世社会とは何だったのか、どこから来たのか〉を探究。史料学も手がける。	講義:日本中世という癖の強い魅力的な世界を、他の時代や東アジア全体との関係を重視して概観する。演習:文献史料の読解によってその世界を自分の目で観察し、先人のメッセージを適確に受信するスキルを学ぶ。	一次史料(当事者による生の記録)と二次史料(後世にまとめた史書)の講読から、客観的・正確に史実を知るスキルを指導し、また学界の定説や最新の知見を紹介して、文献史学の知識・方法論を指導する。
渡辺 直紀*	教授	韓国文学・文化、比較文学。植民地時代の朝鮮や、解放後の南北朝鮮の文学行為・文化現象を、「近代」「帝国」「国民国家」などのキーワードで読み解いていく。	講義:韓国・朝鮮の歴史と文化、演習:韓国・朝鮮とモダニティ。20世紀以降の韓国・朝鮮の文学や文化、歴史などについて書かれた日本内外の著作を輪読し、その現代的な意義を考え、履修者各自の研究テーマとの接点を見出す。	最近では以下のような研究書の輪読をしている。一王恩美『東アジア現代史のなかの韓国華僑—冷戦体制と「祖国」意識』、三元社、2008。李海燕『戦後の「満洲」と朝鮮人社会—越境・周縁・アイデンティティ』、御茶の水書房、2009。新城道彦『天皇の韓国併合』、法政大学出版局、2011。日夏もえ子『越境の映画監督・日夏英太郎』、文芸社、2011。Takashi Fujitani, Race for Empire: Koreans as Japanese and Japanese as Americans during World War II, University of California Press, 2011。Jun Uchida, Brokers of Empire: Japanese Settler Colonialism in Korea, 1876-1945, Harvard University Asia Center, 2011

社会学専攻				
氏名		研究領域・内容	担当科目の内容	近年実施した研究指導の内容
安藤 丈将	教授	政治社会学。日本を中心とする北東アジアの食、農、原発問題に関わる社会運動を対象にし、フィールド調査をしながら、運動が市民社会と民主主義に及ぼす影響を研究している。	講義:政治社会学。社会運動、民主主義、食と農に関する政治学、社会学的な文献を購読しながら、政治と社会との関係を捉える理論的な枠組みを学ぶ。	受講者の専門領域に考慮しながら、理論的な枠組みと実証調査の方法を指導する。
アンジェロ・イシ*	教授	移民研究、エスニシティのメディア社会学。グローバル時代の国際移民、とりわけ在日外国人、日系ブラジル人および在外ブラジル人ディアスポラに関するメディア社会学的研究。	移民研究、多文化共生論、トランスナショナルな人の移動に伴うメディアや文化生産に関する文献を輪読・ディスカッションする。	日本に移住した日系ブラジル人の政治・社会・文化活動に関する研究を指導した。
大屋 幸恵*	教授	アート・ビジュアルカルチャーの社会学、記号論、消費社会学。正統文化およびポピュラーカルチャー等の活動実践と社会的階層やアイデンティティとの関連性についての量的・質的調査研究。	講義:ジェンダーと文化の社会学、演習:文化とコミュニケーション。授業では、文化現象のみならず社会制度や消費行動を捉えるために記号論についての理解を深めつつ、社会のあり方や権力関係、アイデンティティの政治について検討する。	日本人の時間意識およびその行動実態。東日本大震災被災地における初等・中等教育での「原子力推進教育」に関する調査研究。「看護師のパブリックイメージ」形成に関する質的・計量的調査研究を指導。

氏名	研究領域・内容	担当科目の内容	近年実施した研究指導の内容
奥村 信幸*	教授 ジャーナリズム、メディアと政治、デジタル・ジャーナリズム。ニュースの内容分析等を通じて報道の偏りや問題を検証。プラットフォーム多様化の中でニュースの未来を構想する。	講義：報道のケーススタディ(国内)・(海外)は特定の事件や出来事の報道を検証することを通じ、ジャーナリズムの問題の現実的な解決法を模索する。演習：ネットワーク社会の諸問題は、ニュースだけでなく、サイバー社会におけるプライバシーや著作権などについて議論する。	紛争地の取材におけるジャーナリストの安全確保、欧州などで多発するテロ事件における宗教と報道の自由の問題、インターネットにおけるプライバシーや国家機密と知る権利のバランス、いわゆる「フェイクニュース」が発生する構造など広く扱いたい。
菊地 英明	教授 福祉社会学、社会保障論。福祉にまつわる諸現象、特に貧困・低所得・社会的排除・少子高齢化などについて、理論的・実証的に研究している。	講義：現代社会と福祉。演習：福祉のマクロ社会学、福祉のミクロ社会学。いずれの授業においても、受講生の問題関心を踏まえつつ、福祉・社会保障にまつわる重要な文献を精読し、議論を深めることをめざす。	福祉社会学の最新の研究動向を理解するための文献講読を実施した。
粉川 一郎	教授 非営利組織論。現代日本社会における非営利組織の果たす役割。新しい公共の適切なあり方について、評価、特に社会的インパクト評価という視点を軸に考える。	講義：非営利組織と社会。演習：非営利組織と情報。戦後日本の新しい公共概念の進展の過程を見ながら、非営利組織が社会的に受け入れられない理由をメディアと評価の2つをキーワードに検討する。	日本で公開されているNPOのマネジメントに関する情報誌の内容の分析や、日本評価学会のジャーナルで取り扱われているNPO評価のあり方の変遷を見ることで、非営利組織評価で何が中心的に議論されているか検討した。
庄司 昌彦	教授 情報社会学(情報化が政府・企業・社会に与える影響、行政等のDX、スマートシティ、国際比較研究など)、情報通信政策。データやAIの活用とELSI(倫理的・法的・社会的課題)等を研究している。	講義：情報社会と政策。データ活用と個人情報・知的財産権保護の均衡、人工知能(AI)活用と社会システムの再構成、情報化の進展に伴う生活文化の変化等について、実態と政策の理解、今後のあり方の検討を行う。演習：情報社会とガバナンス。社会の様々なアクターが主体的に相互調整を行い社会を運営していくことを「ガバナンス」と捉え、今後の情報社会に求められるガバナンスのあり方について、考察・検討を行う。	情報社会のあり方に関する今日的な社会課題を探りあげ、国内外における実態・ファクトの把握、各ステークホルダーの動向、学術および政策議論の動向等を整理し、批判的かつ未来志向であり方を検討・提言する。
千田 有紀*	教授 現代社会論(ジェンダー、家族、新自由主義ほか)。現代社会における諸問題の分析を、理論的・パースペクティブから行う。また歴史研究、インタビュー調査など。	講義：ジェンダーと社会学理論。演習：現代社会学。授業では構築主義の理論的文献もしくは歴史研究などを精読し議論を行う。さらに論文作成に向けた報告と検討を行う。	日本において「女の子写真」というジャンルがどのように作られていったのか、また農村を対象とした戦前の雑誌に見られる家族像の変遷について指導した。
垂見 裕子*	教授 教育社会学・比較教育学。家庭背景や家族構成による子どもの学力格差、親の文化資本・社会関係資本による子どもの教育格差などについて国際比較を用いて実証的に研究を行っている。	講義：教育の社会学。演習：教育格差の比較社会学。国内外の文献を精読し、社会学の分野で学校という社会装置が理論的にどのように捉えられ、議論されてきたのかを学び、教育格差が生成されるメカニズムを多角的に考察する。	教育格差に関する国内・海外の先行研究をふまえて自分の課題・分析枠組みを設定し、量的調査法を用いて仮説検証を行う社会調査の一連のプロセスを指導。
内藤 暁子*	教授 ジェンダーの社会学、教育社会学。教育達成のジェンダー・ギャップが生み出される社会的背景についての考察や、アメリカ新日系移民女性を活用する社会関係資本(ソーシャルキャピタル)についての調査を行っている。	講義：多文化共生と人類学。演習：現代文化人類学。授業のテーマはさまざまであるが、社会的包摂／排除、多文化共生のあり方、アイデンティティの諸相等を多角的に考察し、検討を行う。	『ライブハウスの人類学』等、現代文化の諸相のなかでも受講生の関心領域に沿ったテキストを精読し、文化人類学の理論と方法等について指導。
中西 祐子	教授 ジェンダーの社会学、教育社会学、ソーシャルキャピタル、アメリカ新日系移民研究。	講義：日常生活とジェンダー。演習：ジェンダーと現代社会。授業ではジェンダー、フェミニズム、教育、ソーシャルキャピタル等に関する国内外の文献を手掛かりに、現代社会について考察している。	学校文化とマスキュリティ、現代社会のジェンダー構造、ソーシャルキャピタルと進学格差。
林 雄亮*	教授 大規模社会調査の計量分析に基づく社会的な不平等・ライフコースに関する社会学的研究、および青少年の性行動調査研究。社会調査方法論や統計分析手法にも関心を持っている。	講義：計量行動科学。演習：モデルと社会分析。講義では、イベントヒストリー分析とパネルデータ分析について解説と実習を行う。演習では、各自の研究関心に沿った分析モデルの選択とその実践について報告と議論を行う。	先行研究をふまえて解くべき課題を導出し、それをモデル化して大規模調査データ(全国規模のパネル調査、横断的調査)の分析から仮説検証を行うという計量社会学的研究の一連の流れについて指導する。
人見 泰弘*	教授 国際社会学、移民・難民研究、グローバルゼーション。	講義：国際社会学。演習：国際社会学の応用。ヒト・モノ・カネ・文化・情報など国境を越えて発生する社会問題に関する文献輪読を通じて議論や討論を行い、受講生が論文執筆に必要な国際社会学の理論と方法を習得する。	国際移民・エスニシティ・社会統合・トランスナショナリズムなどをテーマに学術論文および専門書を輪読し、国際社会学の理論と方法について指導した。
松井 隆志	教授 社会運動史(社会運動研究、歴史社会学)。文献・資料調査やインタビューを通じて、戦後日本の社会運動、特に1960年代以降の反戦運動、「市民運動」等を研究している。	講義：戦後日本の歴史社会学。演習：社会運動史研究。戦後日本の政治と社会の歴史的变化を確認しながら、主に文献資料に基づき、過去の社会運動の営みを捉える。	受講者の問題関心にも配慮しつつ、多くの関連文献を読むことを通じて、歴史社会的想像力を養う。
南田 勝也*	教授 音楽社会学。ポピュラー音楽にまつわる社会的な事象全般。社会学理論、構造主義、メディア産業論、コンテンツ文化論、定量調査、定性調査など。	講義：音楽メディアの社会学。演習：音楽社会学。授業では、音楽社会学の文献を精読し、いかに社会学の諸理論が音楽研究の分野に導入されてきたかを熟考し、議論する。さらに、学生の研究テーマに関する報告と検討を行う。	音楽社会学のベースとなる数冊のテキストを原著で読み、書かれている各事例について実際に音源を聴きながら検討・議論をし、文化のとらえ方について複数の視点から指導。
矢田部 圭介	教授 社会学理論(とくにA.シュッツを中心とする現象学的社会学とその周辺)の検討。ミュージアム展示(とくに記憶と歴史にかかわるそのナラティブ)の検討。	講義：現代社会と社会学理論。演習：日常世界と社会学理論。授業では、社会学とその周辺のテキストの講読と議論を行う。また履修者各自の研究報告にもとづく議論を行う。	戦禍や災禍などの記憶の継承に関わる諸テキストの検討を行った。
山崎 哲哉*	教授 生活世界論、社会意識論、ジェンダー論、若者論、社会運動論など。生活世界論、ジェンダー論、男性学等の視点から、男女共同参画やネット世代といったテーマを研究している。	講義：生活世界とジェンダー。演習：若者文化と世代。	社会学やジェンダー論等を学ぶ上で重要と思われる文献を英文原著とつきあわせながら、翻訳書を中心に熟読し議論するという形で授業を進めている。あわせて学生の研究テーマに関する報告と検討も行う。

氏名	研究領域・内容	担当科目の内容	近年実施した研究指導の内容
林 玲美	教授 人種・民族間関係論。質的調査方法。社会的構築物としての人種やエスニシティ、エスニック・マイノリティ集団や移民コミュニティなどの集団間関係とその変容と要因を中心に研究している。	「現代社会とエスノグラフィ」では、現代エスノグラフィの名著を講読する。特により近年研究の蓄積が進みながらも議論も多いオートエスノグラフィの知見と論争に接近する。「マイノリティと社会運動」では、マイノリティ諸集団がどのようにマジョリティ集団に異議申し立てを組み立て、運動を展開していくのか、社会運動理論の基礎固めをしつつ、先行研究の講読を進め、各自の問題関心にもとづいた各種資料の二次分析を行う。	エスニックコミュニティの教育や異議申し立て戦略へのエスノグラフィックな接近が指導の中心となる。

教員能力開発プログラム

氏名	研究領域・内容	担当科目の内容	近年実施した研究指導の内容
大内 裕和	教授 教育社会学・教育制度論	講義・演習:現代学校教育。講義では現代の学校教育が抱えている諸課題を取り上げ、それを多角的・多面的な視点から検討する。演習では現代の学校教育が抱えている諸課題について、参加者と討論を行う。	教育における格差と貧困、学費・奨学金・ブラックバイト問題、現代日本の教育改革、教員の過剰労働問題などについて指導を行った。
金井 香里	教授 教育人類学、異文化間教育、教師教育学。	講義・演習:カリキュラム(教育課程、学習者の学びの経験)の組織、教育の方法について、国内外の理論と実践事例に基づき検討する。とくに、現代社会における教師の経験と役割をマイノリティの子どもに対する教育という観点から考察する。	性的マイノリティの子どもたち、国際児(ハーフ、ダブル)の学校経験に関するききとり調査、学校教育における子どもの権利をめぐる経験についてのききとり調査、中学校教員による協働学習の実践に関するフィールド調査の指導を行った。

論文テーマ一覧

博士前期課程 (2023 年度)

専 攻	論 文 題 目
欧米文化	昔話の骨組み抽出の試みとそれによる比較分析の実践 「バシュクンジ」と KHM21「灰かぶり」を例に
	『ヘンリー五世』における独白の特異性 —王の双生性のアイロニカルな表現法—
日本文化	泉鏡花の河童像 —『貝の穴に河童の居る事』『河伯令嬢』—
	日本と中国の文献上に見られる古代羽衣 伝説の天女と羽衣の変遷
	濫澤龍彦「陽物神譚」論—両性具有モチーフを中心に—
	中国と日本における三国志演義の人物像の変化 —蜀後期三人の武将を中心に—
	小茂田青樹論—「虫魚画卷」にみる生物表現をめぐる—
社会学	中国における既婚女性の第2子の出生意欲の社会的分析

博士後期課程 (2018 年度～2021 年度)

学 位	論 文 題 目
博士 (人文学)	現代日本語におけるマス・メディアの言語表現 —新聞における敬語・外来語・省略語の使用を中心に—
	「古今集」の「うた」における形成と展開
	ロザルバ・カリエラ研究 18 世紀ヴェネツィアの職業画家
博士 (社会学)	女子の理系進路を規定する要因と メカニズムに関する社会学的研究 —小中学生の学力と高校における文理選択に着目して—
	若年層の親世帯からの独立プロセスにおける 出身階層間格差の解明

研究環境

■ 大学図書館

大学図書館は緑に囲まれ、落ち着いて研究や読書ができる空間です。各分野の専門書はもちろん、美術書や古典資料、最新の学術情報を伝える国内外の書籍・雑誌など約65万冊を備えており、データベースも充実。また、学習院大学・成蹊大学・成城大学・甲南大学、テンブル大学ジャパンキャンパスの図書館を相互利用できる制度があり、貸出も可能です。

◆ 洋書プラザ（8号館地下1階）



電動式書棚に、外国語の図書や雑誌を20万冊揃えています。「絵本・多読本コーナー」には英語・ドイツ語・フランス語などの絵本や児童書が充実し、気軽に洋書にふれることができます。



◆ 貴重図書室（大学図書館地下1階）



蔵書のなかで希少性の高い資料を特別図書、貴重図書として保存しています。これらの所蔵図書は「六家集」（松屋本書入六家集本山家集を含む）など約600点にのぼり、また「イギリス通貨・銀行史」「ラファエル前派」「朝田家型紙」などのコレクションも所蔵しています。



■ 情報・メディア教育センター

学内のコンピュータ、ネットワークおよび映像メディア機器などのデジタル環境を整備・提供し、教育・研究の高度情報化を推進。充実したICT環境の提供とともに、ICTを道具として使いこなすための情報教育を支援しています。

◆ 利用環境

キャンパス内には、無線LAN（Wi-Fi）を整備。広いエリアでPCやモバイル機器をWi-Fi接続して利用できます。コンピュータ教室やフリースペースのPCは、講義やゼミなどの授業のほか、個人でも自由に利用できます。また、武蔵大学は学術認定フェデレーション（学認）に参加しているため、他機関が提供するサービスも利用できます。さらに、マイクロソフトのMicrosoft 365や、Google社のGoogle Workspace for Educationの提供なども行っています。



■ 大学院院生室（3号館3階）

学生が授業・研究に十分専心できるよう、環境整備に努めています。専攻ごとに専用研究室を設け、個人の机やPC、論文作成に必要な複合機、連絡ボードなどを備えています。7:00から21:50まで自由に使うことができます。



各種制度

■ 早期修了制度（博士前期課程のみ）

次の条件を満たした成績優秀者が1年で大学院博士前期課程を修了できる制度です。

【条件】

1. 入学前既修得単位が10単位以上（経済学研究科は演習科目の4単位を含む）認定されていること。
※人文科学研究科キャリアアップコース、生涯学習コースではこれを条件とはしません。ただし、入学前既修得単位の認定は可能です。
2. 各研究科が定める授業科目を30単位以上修得し、その2/3以上の評価がAであること（認定された入学前既修得単位を含む）。
3. 修士論文、課題研究論文あるいは特定課題研究の評価がAであること。

■ 大学院進学奨励学生制度（武蔵大学在学生対象）

学部4年次から大学院科目を履修するもので、「早期修了制度」と組み合わせると効果的です。

【志願資格・条件】

1. 学部3年次生。
2. 大学院への進学を希望する者。
3. [経済学研究科] 経済学部3年次終了時に、卒業に必要な単位を100単位以上修得し、かつ通算GPAが3.00以上の者。
[人文科学研究科] 人文学部・社会学部3年次終了時に、卒業に必要な単位を100単位以上修得し、かつ通算GPAが2.60以上の者。

選考に合格すれば、学部4年次に科目等履修生として博士前期課程の科目を履修することができます（上限あり）。人文科学研究科では、その成績や単位が一定の条件を満たせば、大学院Ⅱ期入試（一般入試）において筆記試験が免除されます。

博士前期課程進学後は学部4年次で履修した各研究科の入学前既修得単位を含め、各研究科が定める授業科目を30単位

以上修得し、その2/3以上の評価がAで、かつ修士論文、課題研究論文あるいは特定課題研究の評価がAであれば、1年間での修了が可能です（早期修了制度）。これは本学の学部と研究科の一貫教育をめざす制度であり、学部4年間と研究科1年間の計5年間で「学士」と「修士」の学位を取得することができます。

▶ 詳細は武蔵大学履修要項（共通編）をご参照ください。



■ 長期履修学生制度（博士前期課程のみ）

職業を有している等の事情により、2年間で博士前期課程を修了することが困難であると予め判断される者に対し、余裕をもって勉学を進めることを可能にする制度です。修業年限は「3年」または「4年」です。最長在学年限は、選択した修業年限に1年を加えた年限となります。年間の授業料等は、標準年間授業料の2/3（3年の場合）、または1/2（4年の場合）となります。したがって、許可された修業年限内に支払う授業料等は標準修業年限（2年）で修了する場合と同額です。希望する学生は入学時に申し込みます。

※留年時は改めて授業料等を納める必要があります。

■ 特別聴講学生制度

本学大学院に在籍している学生が、協定を締結した他大学院（履修要項に記載されています）の授業を聴講できる制度です。研究科委員会で認められた場合、協定校で修得した単位は修了要件に含めることができます（上限あり）。

※年度や専攻により、協定校が異なる場合があります。また、協定校によって聴講料が発生する場合があります。

▶ 経済学研究科の協定校



▶ 人文科学研究科の協定校



年間スケジュール

■ 学位取得のプロセス

(2024年度参考)

		博士前期課程	博士後期課程
1年次	4月	ガイダンス 履修登録 春学期授業開始 研究指導計画書交付	ガイダンス 履修登録 春学期授業開始 研究指導計画書交付
	7月	春学期授業終了	春学期授業終了
	9月	秋学期授業開始	秋学期授業開始
	12月	★経済院生会主催研究発表会 秋学期授業終了	★経済院生会主催研究発表会 秋学期授業終了
	2月		年間研究報告書提出
2年次	4月	ガイダンス 履修登録 春学期授業開始 研究指導計画書交付 学位論文作成届提出	ガイダンス 履修登録 春学期授業開始 研究指導計画書交付
	7月	春学期授業終了	春学期授業終了
	9月	秋学期授業開始	秋学期授業開始
	12月	学位論文最終題目届提出 ★経済院生会主催研究発表会 秋学期授業終了	★経済院生会主催研究発表会 秋学期授業終了
	1月	学位論文提出	
	2月	論文審査・最終試験	年間研究報告書提出
	3月	学位授与	
3年次	4月		ガイダンス 履修登録 春学期授業開始 研究指導計画書交付 学位論文作成届提出
	7月		春学期授業終了
	8月		☆予備審査用論文提出
	9月		秋学期授業開始
	11月		学位論文提出
	12月		★経済院生会主催研究発表会 秋学期授業終了
	1月		論文審査・最終試験
	3月		学位授与

★:経済学研究科 ☆:人文科学研究科 無印:共通

修了者進路(主な就職先・進学先)

2014～2023年度

経済学研究科 博士前期課程

◆ 経済・経営・ファイナンス専攻

- 株式会社SBI新生銀行
- 交洋貿易株式会社
- セントラル短資株式会社
- 株式会社ソルテック
- 村田新能源(無錫)有限公司
- 日本経営ウィル税理士法人
- 税理士法人古河会計事務所
- 独立行政法人地域医療機能推進機構
- 進学(武蔵大学大学院経済学研究科)
- 進学(他大学大学院)

人文科学研究科 博士前期課程

◆ 欧米文化専攻

- 株式会社キャメル珈琲(KALDI)
- 株式会社ティーネットジャパン
- デル株式会社(現:デル・テクノロジーズ株式会社)
- 株式会社臨海
- 渋谷区立小学校
- 練馬区立中学校
- 自由の森学園中学校・高等学校
- 進学(武蔵大学大学院人文科学研究科)

◆ 日本文化専攻

- 株式会社プロネクサス
- 山梨県庁
- 東京国立博物館

- 市川市立市川歴史博物館
- 佐野市立吉澤記念美術館
- 千葉県立高等学校
- 東京都立高等学校
- 山脇学園中学校・高等学校
- 進学(武蔵大学大学院人文科学研究科)

◆ 社会学専攻

- 株式会社メディアミックス
- ヨシモトポール株式会社
- 株式会社ロジネットジャパン
- 社会福祉法人板橋区社会福祉協議会
- 神奈川県立高等学校
- 東京農業大学第一高等学校・中等部
- 進学(武蔵大学大学院人文科学研究科)
- 進学(他大学大学院)

人文科学研究科 博士後期課程

◆ 欧米文化専攻

- 武蔵大学総合研究機構専門研究員
- 大学非常勤講師(東京学芸大学、東京大学)
- 東京都立高等学校

◆ 日本文化専攻

- 武蔵大学総合研究機構専門研究員

◆ 社会学専攻

- 東京大学社会科学研究所附属社会調査・データアーカイブ研究センター
- 大学非常勤講師(武蔵大学)

2025年度 入試情報

※詳しくは募集要項をご参照ください。



経済学研究科

	入試区分	募集人員(専攻)	試験日	出願期間 (締切日消印有効)	合否通知 (発送日)	入学手続期間(締切日消印有効)	
		経済・経営・ファイナンス				第一次	第二次
博士前期課程 (修士課程)	I 期	10	2024年7月20日(土)	2024年6月21日(金)～ 6月28日(金)	2024年7月22日(月)	2024年7月23日(火)～ 8月2日(金)	2025年2月25日(火)～ 3月11日(火)
	II 期		2025年2月22日(土)	2025年1月9日(木)～ 1月17日(金)	2025年2月25日(火)	2025年2月25日(火)～ 3月4日(火)	
博士後期課程		5					

経済学研究科の入試へ出願を検討されている方は、こちらのフォームより事前にご相談ください。



人文科学研究科

	入試区分	募集人員(専攻)			試験日	出願期間 (締切日消印有効)	合否通知 (発送日)	入学手続期間(締切日消印有効)	
		欧米文化	日本文化	社会学				第一次	第二次
博士前期課程 (修士課程)	I 期 ＜学内推薦入試＞	若干名	若干名	若干名	2024年10月15日(火)	2024年9月6日(金)～ 9月17日(火)	2024年10月18日(金)	2024年10月21日(月)～ 10月25日(金)	2025年2月25日(火)～ 3月11日(火)
	II 期 ＜一般入試＞	4	4	4	2025年2月22日(土)	2025年1月9日(木)～ 1月17日(金)	2025年2月25日(火)	2025年2月25日(火)～ 3月4日(火)	
	II 期 ＜社会人入試＞	4	4	4					
博士後期課程		4	4	4					

2024年度 入試結果

経済学研究科

■博士前期課程(修士課程) I 期入試

専攻	コース	志願者	受験者	合格者
経済・経営・ファイナンス	研究者コース	5	5	3
	高度職業人コース キャリア別プログラム	1	1	1
	高度職業人コース テーマ別研究プログラム	0	0	0
計		6	6	4

■博士前期課程(修士課程) II 期入試

専攻	コース	志願者	受験者	合格者
経済・経営・ファイナンス	研究者コース	17	15	3
	高度職業人コース キャリア別プログラム	0	0	0
	高度職業人コース テーマ別研究プログラム	0	0	0
計		17	15	3

■博士後期課程

専攻	志願者	受験者	合格者
経済・経営・ファイナンス	1	0	0
計	1	0	0

人文科学研究科

■博士前期課程(修士課程) II 期 一般入試

専攻	志願者	受験者	合格者
欧米文化	4	4	3
日本文化	4	3	3
社会学	24	20	8
計	32	27	14

■博士前期課程(修士課程) II 期 社会人入試

専攻	志願者	受験者	合格者
欧米文化	1	1	0
日本文化	0	0	0
社会学	0	0	0
計	1	1	0

■博士後期課程 一般入試

専攻	志願者	受験者	合格者
欧米文化	1	1	0
日本文化	1	1	1
社会学	0	0	0
計	2	2	1

研究支援

■ TA (Teaching Assistant) 制度

授業の教育効果を高めることを目的に、担当教員の指揮・監督のもとで授業等の教育補助業務を行う制度です。奨学金と並び、学生の研究活動を経済的にサポートします。

■ 大学院生調査費等補助制度

学生が研究のために国内外で調査を実施する場合および学会において発表を行う場合に、交通費等を補助する制度です（認可制。上限あり）。

■ 研究発表助成制度（人文科学研究科）

学生の研究発表の機会を増やすため、人文科学研究科では年1回「武蔵文化論叢」を発行し、全国の大学等に配布しています。大学院在籍者だけでなく修了者・博士後期課程修了必要単位修得済退学者（ただし、3年以内）等を対象に人文科学関係の論文を募集し、投稿者には抜き刷りも提供します。

■ 大学院生研究費

学生の研究活動を助成することを目的に、年度ごとに各人に支給されます。主な支出対象は、研究用図書費、研究用消耗品費、会費、学会・研究旅費、サーバーアクセス権料、研究用コピー代などです。

■ 研究奨励野澤賞（経済学研究科）

経済・経営・ファイナンスの研究に功績が認められた優秀な論文に研究奨励野澤賞を授与します（1件20万円）。大学院在籍者だけでなく、修了者・博士後期課程修了必要単位修得済退学者を対象（応募論文提出時において45歳未満の者）に、年度2件まで授与します。

奨学金

奨学金名称	資格	種別	課程	人数	金額	期間
武蔵大学大学院給付奨学金	人物・成績が優れ、経済的援助を必要とする者	給付	博士前期	各学年4名	年額20万円 (春学期分:10万円、秋学期分:10万円)	2年（標準修業年限）
			博士後期	各学年4名	年額30万円 (春学期分:15万円、秋学期分:15万円)	3年（標準修業年限）
武蔵大学大学院 学生国外留学奨学金	協定校留学の制度を利用して留学する者	給付	博士前期	若干名	年間授業料相当額（限度額）**	1年間（留学期間） または1学期
			博士後期			
武蔵大学提携 教育ローン金利援助奨学金	本学指定の信販会社より学費等の納付を目的として教育ローンを借用し、同年度中に金利を支払っている者	給付	博士前期	応募人数による	在学中に支払った金利に対しての一部援助 (上限5万円)	1年間（標準修業年限）
			博士後期			
日本学生支援機構 大学院奨学金第1種（無利子）	経済的援助の必要な成績・人物優秀者	貸与	博士前期	推薦基準に合致した適格者全員	月額50,000円、88,000円から選択	2年（標準修業年限）
			博士後期		月額80,000円、122,000円から選択	3年（標準修業年限）
日本学生支援機構 大学院奨学金第2種（有利子）	経済的援助の必要な者	貸与	博士前期		月額50,000円、80,000円、100,000円、130,000円、150,000円のうちから1つ選択	2年（標準修業年限）
			博士後期			3年（標準修業年限）

※1年間留学の場合、本学大学院の授業料の1/2相当額を給付。また、留学先の授業料が本学大学院の授業料を超える場合、その差額分について本学大学院の授業料の1/2相当額を限度としてさらに給付。セメスター留学（1学期）の場合、1年間留学の場合の1/2相当額を給付。

お問い合わせ先：学生生活課 TEL. 03-5984-3722

授業料等納付金内訳表

参考：2024年度授業料等納付金

【博士前期課程】

(単位：円)

項 目		春学期	秋学期	年額	
一次手続時	入 学 金			150,000	
二次手続時	学費	授業料	260,000	260,000	520,000
		維持費	70,000	70,000	140,000
		計	330,000	330,000	660,000
	委託徴収会費(学会費)		2,500		2,500
初 年 度 合 計		482,500	330,000	812,500	

※武蔵大学出身者は、入学金が免除されます。

【博士後期課程】

(単位：円)

項 目		春学期	秋学期	年額	
一次手続時	入 学 金			150,000	
二次手続時	学費	授業料	240,000	240,000	480,000
		維持費	70,000	70,000	140,000
		計	310,000	310,000	620,000
	委託徴収会費(学会費)		2,500		2,500
初 年 度 合 計		462,500	310,000	772,500	

※武蔵大学出身者あるいは武蔵大学大学院博士前期課程修了者は、入学金が免除されます。

私費外国人留学生授業料減免制度

経済的に修学困難な私費外国人留学生を対象に、本大学院の学位取得を目的として研究科に在学している私費外国人留学生の授業料の減免を行う制度を設けています。

お問い合わせ先：学生生活課 TEL. 03-5984-3722

アクセス



■ 主要駅からのアクセス

電車を利用して

池袋駅	西武池袋線	江古田駅	徒歩 6分
新宿駅	都営大江戸線	新江古田駅	徒歩 7分
渋谷駅	東京メトロ副都心線	新桜台駅	徒歩 5分
有楽町駅	東京メトロ有楽町線		

バスを利用して

中野駅	関東バス (江古田駅行)	江古田駅	徒歩 5分
高円寺駅	関東バス・国際興業バス (赤羽駅東口行/赤羽車庫行)	豊玉北	徒歩 5分
目白駅	都営バス (練馬車庫行)	武蔵大学前	徒歩 0分

Musashi University
Graduate School Guide
2025



武蔵大学 アドミッションセンター 〒176-8534 東京都練馬区豊玉上1-26-1
TEL.03-5984-3715 URL: www.musashi.ac.jp

